WA 7
30
2

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-001
国立国会図書館

一 有ありうへゆく人よ
うときく人よしあるまい
業平八を恒り智也
如のうるく
裏ゝきぬなるし
あはしおおとこ
おてゆ思りるめとぬき
思うるあるとぬき隠きいといをみむ
けり心也乗さんもなくなるといきた

業平也

恒とゝゆ

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-002
国立国会図書館

る喪をぬけいもうと形ると云儀也形
我さへもあくとい亦あるさりひもか
くなかと云心也人をいうへは殺もと
さりひる表心也喪の字をとさいひと
らむ也

此段ハ

此時ハさ海を影とて哀なむへき事
侍ほ題ものとまりわて逸興形の変
也よりすんの雖義なるへるいいとく

そしよ海するとも也此段ならすする時
の事也

一番男人乃むとめ
古注云れ安云くる閑を誰まさらく
き人あるし
物やこ　物思ひ代病とあこ心也
つまくとおもわけ
思ふおもる心也義とあうへ心也
六月の

此時面白しと此詞いとよくく可思
惟之所節乃氣暑熱乃くるしさやう
くゝ爲しゝて夜ふけて涼風ふき吹て
夏と中秋乃天と成うるやうと覚ゆ
ゆゑなるべし
り蟋蟀なくこゑのていねへく
此哥心充滿情おかなく風情ゆきうる
也古注なるまいりくとうあつ
きに比りしる實ハあらひて南東ふる

比風ふく方にしむるうち吹て涼さ
夏中秋乃天ハ心しゝるに節義のた
かゝるをみてまもるへきか
との心をれにわにけこせとう
ゆるせいかりも吟味して時ハ素よ
思へきなるや
蟋蟀紀友孔日くしふりむき
見ハさしむきてかゝわ別かゆ
いこゝろこもわこゝ所折義ハ心を思ひ合

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-004
国立国会図書館

て了簡すべし　あの事とおもひ所あり
間さうあるとこゆエ夫すべき物也

一番勇いとうるりきき友
業平乃友也　こゝろを思ふるうや
人の国へ
受用かとうや身はのへよけるとら
こきるべ
忘れぬ事相よろこ
我ハ忘れすと云国也

めうるともおもかくしめくよ忘う
めうるとうの事ハ
里を隔ても我ハ
すとゞいうんと
仕も面影ゆだつと云心也
一首男ハ
業平を思也
おかゝなさの引手あるよ成
大麻とハ幣帛ハ引手あるとハ

こゝろ取りて一形をすがたよい
つゝ妻ゆゑ心いと思人の心あまくこゝろう
れいたゆまずすとゝ云心也あつ〳〵
くゝあまつゝれ名ふゝ為てとゝ作あり一方
ふらる所のあるをとゝ云心也

一首男

いとゝまるゝ〳〵き池と人
心いと人を切よ結ひ思ひ人ゆえん
里をいうまとすとふハ事物也と意心

仮解一ゝる心也

一首男いとゝ

うゝまりこねよけこゝゆゑ義
称よけよこゆゑいと寝と松とうけて
ゝる也心ハ我妹ゆゑ思ハ細あり
をれと他人いゝ思りんやと妹を
あまゝ心也人のむりんといい人の
数ふん事を思ふ儀也
初句の五とゝ〳〵き云ふ

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-007
国立国会図書館

ふしぎなる言葉そとい和歌と
いたんぬめの詞せ心いあまりに歌を
ありまこふ不り歌ふさ我云也大方世中
よ人をあるまじうもしらしてゆれば
思而をこれかしまうてわあとりくこけ
るうと云心也うあくく物をとれうら
もあくうこまと我りて歌を思るわと
りふ心せ心心奥よあるいるへて
一番男うゝむる人を恨て

ぬ乃業を恨るを又業のうゝて
せ
るのをとをつ十いりさぬ
けるるの事而卯をりさぬるとこ真
もあわ又九りさるる事あわ但式
哥よ云不ハ和文をい用を思をうた
事をソハかたるせさもこれかくるまし
きるのハをとも思りぬ人をい思物りい
と云心なわ

朝露はきえのうわてもるぬ
見もはてぬまぼろしき事をそうの誰り
山世をたのこそつへきとは人のたのこ
そつまぼろしき儀せ
吹風はを年ぬ揺はちるす
心おを
はかはを数かくうわもはりかきれ
ひおを
ぬあとをるをりひとちる花

ぬあわをる歌もちる花はをしまのて
とをこ事をきりぬ和也人のぬも又用
事なるを志ぬて秋思事のをりあ
きとりぬ心也　伊勢の領也
あるををくるをこをよ
一首男はせんきいは
をへしうは秋をを月やをの
をへしうへは重阿也きれは心をへ
きせ心はうをうをきをを秋のふき

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-008
国立国会図書館

時やさうさうん歟と云るものあるゝん
うきわい咲〳〵と云心也うへうる
花を賞するか也人の物揚なとまてゝ
花うへゝもゝん時のあなとをゝ思道
すゝ〳〵

一青うさうわちまを記
五月雨の糸すゝ弦うるか糸歟
あやうわ思にみまにたるとゝ
あやめうゝ糸をすゝ歟を思ふゝれとも
為はの事あまをかゝくようりかい菖蒲
ハ沼ゝゝひくゝ物あまをい我才へ心さ
うるを切り思ふ心也乗い要まをて
とハ雑をやれい野うゝ志をゆるす
うゝ也

一青男あひゝくゝまをよ
ゝ詞を切あゝくゝまをとゝ大かゝの人
なわとも有ハ事ゝを逢ゝうきゝ人ふあゝ
ゝゝ時の心を思ふハ

いとゝハ鳥乃鳴らん人しきを
此哥ハかくまへ分ら可し只らぬ事
りきよ思合てこ侍へし　心あはれなき
せ

一　昔男つれなかりける女ニ
女　まことともなし
ゆきやらぬ夢ちをたとる袂
ゆきやらぬ夢ちとハ夢乃中ニてもあり
通ほしやらぬハ夢ちをたとる袖

又ハ天かしの天は空なる露やハをくら
ふしき思ひ乃露こそおくらめと云心
せ露やをくらんと云なとりめでしりくハ
心はらはくせ遠擬ニ天は空なきとあ
るんおもしきせりやう乃詞和心まれハ
ん作りる手柄也とらく工夫ありへき事也

一　昔男ハおもひかけける女
女誰ともなし
思ハすもありもすらめとことの葉

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-010
国立国会図書館

とハ思ハをこうをめとあしるる
りうとハのこのまうるこうしも古今よ
すしやへうこうはうるめうくゆひ
てうことは云しとこ云用心也
一首ハ山てて思　山風切よ見こ有
赤松ハ春のいかりよあうるの
山ゆ赤の詞ハ切すして多い大やうよ
きこゆ但山心い秋ハ夕暮ゑ乃春の景
ゆ霧をきあまりてよろはれ物あるもとる

りうとひをう詞ひ用けるうや
ようしきうし
しともれまおうも
田うんとて
おうて秋ハまも也業をよひようん
うをハ山ハれよりうくる詞やのけひて
高ひしうて
すきものくしまさしや
業をの赤ハ花のおもろうようや
あもよりわあれいくせ

りうとゝのひ給る詞にて用けるうや
よろしきあるらし
こゝも物まゐ女とも
田うらんとて
おもゝ秋ゝ事也業平ゝのひよりん
とてゝあいかれるゝる詞也中ひて
書なりうゝ
すきものゝ一さとやや
業平乃東国のおもゝろきをゝるゝせ
あまよりわあれいく世有

荒はてゝとはあるを一ぬ秀ぶをあるてう
めり荒はてゝと云はよわてあもれい
く世は宿ふてゝ有るんと云也末句い
業平ゝくれて音せぬこをそる世
ひくゝ生てあまこゝろ宿おうまたき
ぶをみる荒はてゝとめんるぬ一ふ
まはうは小用して業おひて差こぶや
とゝそわうれたきハ結也憂せんハう
ゝ宿れうきりきハ玉さうゝもお

にのあまゝはよわふ
女の哥はあうわてよりり鬼とハ女の
る地あまちゝ原の黒塚は鬼おもれり
ときくハ嫉りとりつも女乃事ぶいろ
かひろゝん
前は田うゝんといひ一向の末世を
もたをれ也古注点顕る心と云ふ勇
えあるもの思ゝハあゝハれゝわ
ゝ見ひておちかひ法ふときゝ海せ

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-013
国立国会図書館

そい安うものかひろりんと云よ隠順
しくいへるせは儀業学れ心せは阪
山物領乃祖諧せめけれにをよく思宣
ひへしとう

一晴男家とりくそもひろん
業乗左近の母分なるるし先れよいて
京山よりしるや
住ひひめりまのいりきわと山里よ方をり
くすへまやとも上めてん

んう明せ動撰ふへ瓜ホこるへ事とへさ
や

拍いくやこて
拍思へ乃痛氣と成て絶へしるよや
みそくきかとい冷水灑面ゆと乃心せ
我うに寝うをくなる瓜天河とるる舟ゆ
りいりきろくう
そい面よろくきるるをようわすて
に絶へするかいのまのいきおたるい

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-014
国立国会図書館

大かたは露はあはれ天河をとゝ
かいはしはくあとゝまてやあらんと
ふ心也

一首文体こいうしく
教訓は東坐はるかと
むもこのめ〳〵さわがるかと
業平の真実は女を思ひさわらる時分
と也
いとう

古注に小野云〳〵雖あても伝へ
字伝の伝　古代一流を幣は使わ
ある國乃　いつれは國まもあへし
ふうう御宮人
祖業驛廉は有て伝伝の離ることを
る人也
さ月まつ花橘乃香をかけ
五月をまちてさく物あるを五月まつと
いわ所乃は心はあるを心い只首うわ

きりうる人といりんうめは首の人は
和の香と云也
思ひいてゝあまは成て
山時ゝ方をうかゝおとろく心あわて
尼はなれて山ゝをへけるゝや
一首男つゝ〳〵まうて
見もそ彼ゝ問の事也
簡のうらゝ人
心ゝ此誰ともあり

ゝ川をゝゝふん人のいゝて
深川と云川なまはゝゝ人ゝゝをに
ゝゝさんとゝふせ
見うおりゝあるゝゝ八事あれ
見ハ白波乃山小路ゝおかくるゝよう
ゝゝ久まはゝゝきあ乃やうあれとち
かゝ久まいさもなきせをんをおてう
めるを也をかいをゝ好むとゝ人ゝと業平
を云ハ勤弁〳〵てゝゝるをやゝてを

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-016
国立国会図書館

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-017
国立国会図書館

あこのあ一をきるをあかくらめ
ゆふいかるゝ一おりゝ空うとるてあ
るへ一だいまこゆるもうらわきゝき
ぬとこゆまとゆ海うしいきもかゝ秋を
このうとといゝさもあ一とおと
一そらめるせ

一首ゝ一ゝ歌よゝ隠さわけうあ
業平のうえひゝく音せぬせあい誰
ゝもみ一心ゝうくやあゝゆわゝ人

ゝいあたなる人とせ
ゝう秋人ゝとに行きて
媒の言よくゝまつきていよけう変
也
もと尺一人ゝまゝ人は
業平のあゝその事せ
いゝ一へ乃匂ひいゆゝさゝ花こ
けう
古きるうゝとハ橘花をおきちゝ一

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-018
国立国会図書館

ナル歌乃事ハ也業平我身者乃やうに
もかくなまるる事を花を考歌ならぬ人
てゝる也
いとゝさつかしと思ひて
業平乃うくらめ所なを如いきわかし
く思ひて
これやあの我身あふことをのみ
乗にあふ事をのりれて年月をふれと
思ふを思ふ事をかきといふとなんとてはさ
里かかふき人なりわとらめる也也
と業平乃歌を立出ふる女ふとい我を思
ふ事ハまたまたかるやと思へいさもなき
よりをうらむる也女を殺してこう
ひよいあるさるし見為流のかを也
一首ハ心つける也
嫁をしたる女ハ事也
子三人をもひて
流るもの 古注三人乃名悲を歌

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-019
国立国会図書館

説せふ用て
百〻さよ一とせたゝぬ所くも
山ゆ九ゝ九ゝ形るゝ人あゝ以ゝ恋ゝ
わすゝさゝ一きゝ女ゝ百年ゝ一
とせゝゝゝゝの思乃ゝ一ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人をゝゝゝゝ情深きゝ世ゝ次ゝ心ゝ
ゆ
むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゝゝぬゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝ心世
男ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ男女の中ゝゝゝゝゝゝゝ
日
世乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
業平乃性ゝゝゝゝゝゝ山陰又ゝゝゝ世氏
物語ゝ源氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一番男女ゝゝゝゝ
吹風ゝ秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

風いとうるはしくもひ海あり所西をを入物
あまいかく移りひ云せ可ハ歌をと
云詞ハ切なる心あわらるく思へ
とりとめぬ風ハたらもあ簡あり
とくめるきぬ代めくせをゆうして
う人いとめと移をきへて後ハ也
一首大やけおかして
大やけ〻清和の御門乃御事也おか
してと寵愛し移ハなわ

夫ゆるさまをあ
三位ハ叙位ハ変ハやけ人ハ二条后也
一説御説中鶯の綾をり物をゆ
るさ物く事とあわ
いとこなわける文らやす不
深草后の事也
あわりうたりを男　業平也
ゆるさ物ハ　好色の事也
さうしにおり移へハ

上つかたのしらわかのさうしへかゝせ
あるし
かにはすきこしらく思て
ふまのと思てろはしたうあるりしこと
思て又墨へもゆくせ
ゆくめて
ほ敷乃やうまきこゆ強まさといるこ
を早朝ふゆきこうまや
とのもはりさ

女孺きこめなとする女也后の父長良
卿ゆしくまを女孺のきハ事裏みの天皇
ゆとまハ通ふまやえ〻一樹は説めは
胥ハとわて　きのふしうる義まや
方もいこうまを成ぬハそれハ
業平乃へわこゝ所せ裏せ
おんぞうしうんふきまひて
一段心をおこうてゆせそう八乃具
ふとゆはこうくなるし古注まい新〻

あわ山用うく
密せしとこうし一川よき清橋称
形ゆやまに密一名称いうけれ
うやと云也山寺古今まいる遊密よ入
也山物後乃寺物撰よ入時心りる
ゆおかり可受師説
このこうしとは　清和乃御事也
清和天皇
鷹狩遊猟撰之娯楽嘗為意此為甚
猟歳の称性空家を注之御法よ為一
孫勝乃心よ
ハいうふきうわ
二条后はうう嘆息此心也
うの男をいかりうう
業平流罪は事也此くの次第ハ為後和
定也
くうにこめしたかり
おくかう寿やうあくこ云まやぬ見こめ

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-023
国立国会図書館

ものとあるべし一志かるとハいさゝ
かる儀也
海士のゝ海もよすむ宝乃我ゝ
上旬い序ゆせ心い只我ゝと称をこ
うかりめ世をいうゝゝと也此歌ゝ
と云所充之の所心也我ゝとゝ云に
る心をかゝれいけ人をも世をめ解
と思へきこゝ人をうゝさゝ
ハ和の歌也和ハ又世を治め方をお

るよしを
永尾の御一問
清和山城永尾より法隠道云く法眼の山
今よりそはよあわ
一首つの國ゝ志ゝ和ゝけ
蘆屋の墨ハ業平の餞也
あしやおとゝ
業平兄弟ハ業平仲平ふうや
なきさしをそうし

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-024
国立国会図書館

き興をおもひやるて
難波つをけさうこつの海こと
今釣うそうこれのこと必あるこ事あるし
あるこにみうるさ海也心奇ハ業平歌見
身きの志所人を友ひて世にを折忠
こ所さまを吹心よく楽ぬて見侍へ
し海人の小舟のうあるハう
うひあるい流ふとをあ所をうてを興
あ所さ海をんようつるりきりもみ

世をわるこ事されあるしを思てよめ
所せこれや此世をとゝる品ゝあるた
に久こるさまの也能く吟してきけへ
こ所をあり事こうわて　感こるせ
一首男でうようしよ
あの陸のつきせ
所こ山の国へ
いこ海の山　きて何所とハあ
面白き山也能用法しこのへの大江

乃岸よりやうやうして雪はまこゆるいこ
の山ぎとよめる白雪を意味よ面白し
ゆくひとわ　雪やせ
吹ねとの雲ぞまちまひかくぞ消
かいの山乃梢ぞ雲乃更よ花そと見く
て面白きを雪ぞかくすぞ花乃林をぞ
ふとて雪りかくすなわちわと云儀せ
りくろふハうけ消ものあひうくすせ
さて吹ねけふと云い時もそてあれこ
れうれせうすする時分にかくせい
あやかくなる雲のさ海りなると云心を
わ移るく思ひてかくをと云ぞいかゝ
うかなるもし花意の移不せ
一番男いきミぞ国へ
あの波と同時せ〆一位よ書ものゝ
也
位うぞ郡
位吉今い西里ぞ郡也者い郡乃義なわ

しまや

有明て菊の花さく秋は

有明て菊の花さくといへる世界の秋の奥也春は海へいり当季の景也うれはよきも也言なきいへる面白しあり秋ふかきさま

由也此有菊任言よりてきしにはあり

すぐしてく秋の奥ふかくなれ人くよまし

此哥を感しはべる心よりやみぬる也

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-028
国立国会図書館

うれてあり　うんとうつ
ゐ日をくあり　うんとも也
女もたあり　すきんとも思へ
すきんとあり　りと思りぬ　六あ
ふうぬくし　くて思惟ふき心せ
心来ゐみゆ
ぬひつ　一対を空勉よとる也　使器用と也
ねひつ
ゐおかろ

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-029
国立国会図書館

物供の例多分二月三月也 [illegible]
[illegible] 古注分 月 二日 東云 [illegible]
月 [illegible] 可用 [illegible] 鶯 [illegible] 月
いとと覚侍わ
まふ侍るもかなしいぬる
実 [illegible] 変 [illegible] 夢の [illegible]
心 [illegible] 書わ天 [illegible] 濃潮白波 [illegible]
侍 [illegible] 別 [illegible] 義也 [illegible] 潮
峯 [illegible] 子 [illegible] 師尚 [illegible] 変 [illegible] 業

お母也養 [illegible] 云 [illegible] 斉 [illegible] 人 [illegible] 脇也
我人をやうなきまも [illegible]
[illegible] わやそふ心也
君やう我やりうん [illegible]
此哥い只君やう [illegible] 歌やりうん [illegible]
二句也おもり [illegible] 句
[illegible] 上句二句をの [illegible] 也 [illegible] 心
なこ侍へき也只義の [illegible] ちのさ侍ふ
侍へ

うきくるしき心のやまとひ
叶ふまい上白わ只ふかうる計心せ義う
ばくといこうひさきめようとゆんるい
久さわあひてきくめらと云心せ古と
ふハ世人宣ようとうるわ此物語のも
あ説を付ゆれともと衆花道ふ乃心を
くしたるうや

風乃ゆこと

新山寺寮乃頭を題しる人せ

もこうる
うち人の　乃也
濃き江也あさき孫と云心せ
つい松
陵松のきし墨にて書る也折ふし
ちげるうや
又あよ坂の
又逢ハきと云ちる也業平朝臣乃
ふれ坂をこゆへ者人と也

一首男

おなじ乃同時おなじ也

尾州へ下りもむく途也

女童也

大らとゝ
ゝ
ゝ

乃ゝ
心ハ有宮を今一度見まゝ度をゝし
へよりと彼宮乃ゝ
見思乃切なる心也小野篁り八十路り
けてゝ

あくれはよすがの波のうへにみゆるを
よせてはうつるうきまつのそれとも
うつむるやうにみえるさまをよめる
也うまをは前言の我身をいとうもふ
きを業平のうつむるうしをあすう
へていへるあくこへて

一首うしまい

あまはのうへをまいとうれは身をなけ
山奇も万葉集に奇よはいりいれの例を

伊勢の俗語に意専也思ふ人を月に
桂よりうへてゆくるる也

一 首男

岩ほのかさ形る山かへて
山のいさりむきてさ理あるかゆえ
とそのしらくまそ曲るや待るん今
宗あひ思中は海山をへてもあ逢か
らひあるゆを我中い岩ねのみこうさる
る山もあるにあはぬ恋ゆ恋ゆ

事ゆらと云ふや

一 首男伊勢の国にのていきてあるんと
恋の我方をひきのてせいきてあ
るんとは伊勢にゆるんと也
大淀の浦よりおのてあるみるうら
上二句は例此序也心いろるゆいろ
にてもんはゆくさむひろてうい
すらもと業平は月ゆふき心をいし
へて思ひやらゆとうる義也

袖ぬきてあまたゝうわかすもつ海
見も上三角い庫せ心はみるをあつ変
まて人はやまんとやひる泰心いい
てさてはやこゝろんと云心也
岩ゐうわおゝるみるめ隠をく
みりは岩よりわ生る物をはかくそうわ
みりかりつまゝかてはとはみるめは常
に孫をてゝ変は物せをめく我ゐ隠を
あてを思をする心かくい変しりる

合歓をておりしませはをしかの山
ちけのたはまのうちをうれしくみる
しんと也春夏秋冬毋儀をいかく云
せをの心二条后にあひたてまつりし
事を根代のまゝ
といつんとを根代をいつ音はま
一首田むらは為門とし
文徳天皇後宮也田邑在和泉詳
如後ゝ

合躰まておりしませいをかの山
もけふ代のまのゝわをうれしくみる
うんと也春天代の母儀をいかゝ云
也下の心二条后にあひなくきつつし
事を祈代のるしもといそゝ春ゝ春
といつゝんとを祈代ゝいつゝ
一首田むらゝ代門とゝ
文德天皇後事也田邑在而未詳
ゆ後ゝ

多賀幾子
文德乃女御也　天安二年十一月
逝去云々
安祥寺
山科にあり文德天皇母后藤原氏
右順子建立也
右大臣藤原乃
良房乃一男多賀幾子の兄也貞觀八年
任右大將此時八貞觀八年　此以後代更
なりかへし彼女御天安二十一月薨之後
五宣旨決此時春也天安事　温歌
右京職
業平此時為右京職頭七年任
ちいさうひさうつる心也
月將せかひをつくる心也
山のうへにうつてくるまのよこ
心い數くのさくけ物乃山代とく
なるを則　まこの山をけよ別より

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-036
国立国会図書館

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-037
国立国会図書館

まむよやと云心也 哀さ海優の心 みて
おとおけて手数あわさうに
いまのうしいうくもあらはうはりてわ
は河業平の自書とみえわ
一番だか斉ゐとト也
上ゐ用し貞観八年の心後の変あらへ

播磨のみこ
人康親王也

仁明第四御子也

貞観元五入之月十四日薨四十二
歌ハ
思ひ寄ー〻ら皆すると心也
ちくふをやハ
此石をいろ〻まきハ
へ書人と也
三条のおかさゆき
清和　貞観八年三月廿三日崩去
良房の百花亭より
書乃時代事也

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-038
国立国会図書館

おかこゆきとハ世ハ常りの
大ぶ式任福師乃内子ハ出家の年記
此形章ハ年此四年をかゝ見るる安
浜の麗貞親八年以後ゝ
右馬頭　業平也
あるしも思ふ心みて
哥ハ人を思心ハ見ぬ物なれハかくて
も海見する事ハ有けれとも恋心を
哥にうへてみせ侍る也せうあるハあ

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-039
国立国会図書館

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-040
国立国会図書館

まことに思ふんとする心也

えいさきのみこ

文徳親王 延喜十三歳四十二と見えた

貞観十四 小説生るゝ

一説に説貞観十六誕生文徳十六歳と

あり

一首おとゝろへうる歌に

恋ゆゑ

人のもとゝ打てまゐらせ

あり方へとも あし業平のまふ〳〵する
也
ぬまばくうちのめて折たる春の用
雨と花とをいの乃詞にゆたねてよめる
也除生れつこもわをまいりくわも
とゝるあり山やうなとをいめけ大
やうあるにかわし心除生のつこもわ
よ面れ山るは折て人よ使ふいす変春
よもきるひ花をもをし人をも切な思
心也めけ事一ふ思通して吟味す
へきなり

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-041
国立国会図書館

特別
か
と
54

伊勢物語聞書 2冊 WA7-30 02-042
国立国会図書館

伊勢物語聞書　2冊　WA7-30　02-043
国立国会図書館